

令和3年度第2回尾道市総合教育会議会議録

日 時 令和4年2月24日（木） 午前10時15分 開議
場 所 尾道市庁舎4階 委員会室
署名委員 佐藤教育長

午前10時15分 開会

○末國庶務課長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第2回尾道市総合教育会議を開会したいと思います。

初めに、本会議の主催者であります平谷市長から挨拶をお願いいたします。

○平谷市長 皆さんおはようございます。

令和3年度第2回の総合教育会議の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

大変お忙しい中、委員の皆様には本会議に御出席いただきまして、大変ありがとうございます。

教育委員会の皆様には、日頃から本市の教育行政の充実、発展に御尽力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症でオミクロン株による第6波が猛威を振っているというのが現状でございます。その中で、尾道市はチーム尾道ということで、今ワクチン接種も含めて、感染防止についても本当に懸命に取り組んでいただいているところでございます。一時、1月には三十数人という感染者を出していましたが、現在は10人あるいは20人のところで推移をしているという状況で、隣の三原市、福山市では数が出ている状況があるので、みんな市民は頑張っているという意識を持って取り組んでいただいています。御存じのように高齢者から感染をし、それから重症化する、あるいは基礎疾患ということがございます。尾道の場合は現在も含めて、もともとワクチン接種につきましては個人接種が約7割、集団接種が約3割、職域が3%ぐらいということでございますので、本当に各医療関係者の御尽力をいただきながら現在ワクチン接種を高齢者の方から、基礎疾患の方からということで順調に進めている状況でございます。今月末あたりには、高齢者の方で言うと4割から5割の間ぐらいまで進んでいくような状況でございます。

また、これから5歳から11歳の方へのワクチン接種ということがございます。これはまた小児科の医師等と相談をさせていただきながら、安全な形で取

組をしていきたいという状況です。

一方、このオミクロン株の感染力が強いということで家庭内感染ということがございますので、その中で子供たちが感染をやむなくしているという状況になっている状況です。各学校におきましては、教育委員会の指導の下で適切に対応いただいているということで、大きな感染確認には至ってないというのが状況だろうと思います。毎日、毎朝、小柳部長から私にメッセージが届いておりますが、懸命に学校共々、家庭共々に取り組んでおられると思います。

それから、市P連から、シトラスリボンということでクリアファイルを全家庭に配っていただいて、就学前も含めて、今月中にはまた市民啓発、保護者啓発に取り組むという状況で、みんなで乗り越えようとしているということだと思います。

児童・生徒の学びの保障はもちろんでございますが、社会経済の循環に向けた対応ということで、若干今のように公民館活動等オープンにして取組をいただいているという状況でございますが、3月6日までということがあるので、それを目標に、気を緩めずに取り組んでいけたらと思っています。

本日の総合教育会議は、先ほど末國課長から説明がございましたが、教育大綱の計画期間が終了して、今年度改定の必要がございますから、そのための協議の場として本日開催させていただくものでございます。昨年の11月に引き続き、本年度2回目の会議でございます。前回の会議では骨子案として御提示させていただいたところですが、その後、検討を踏まえて、本日の協議を経て、大綱として完成させたいと考えております。

なお、本年度は尾道市総合計画後期基本計画の策定の年でございます。現在、大詰めを迎えた最終的な取組になっている状況でございますが、具体的な方針を決めながら、細部について今詳細の詰めをしているところでございます。その中に、後期基本計画案を取りまとめている状況の中で、教育分野ということで、教育大綱の策定に向けて、行政の取組の整合性を持ちながら継続して取り組んでいくということでございます。

今日は皆さんと有意義な意見交換を行ってまいりたいと思います。引き続きさらなる連携を図って、本市の教育行政の充実につなげたいと考えておりますので、教育委員会の皆様には何とぞよろしくお願いを申し上げます。

簡単ではございますが、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○末國庶務課長 それでは、これから議事に入ります。

尾道市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、これより市長が議事進行を行

います。

○平谷市長 それでは、本日の会議録の署名人は佐藤教育長を指名いたします。よろしく申し上げます。

それでは、これより協議に入ります。

本日の議題は、前回に引き続き尾道市教育大綱の改定についてといたします。

今回は、第1回会議での意見を踏まえ、骨子案に肉づけを行い、今回、尾道市教育大綱（案）として提示させていただいておりますので、御協議をお願いするものでございます。

それでは、事務局から大綱案の説明をお願いいたします。

○末國庶務課長 それでは、事務局から御説明をさせていただきます。

協議、尾道市教育大綱の改定について御説明申し上げます。

本日は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項に規定する市長が定める教育に関する大綱の策定について、同条第2項の規定に基づき協議するものでございます。

教育大綱は、教育政策に関する方向性を明確にし、教育政策の総合的な推進を図ることを目的としております。教育大綱の策定に当たっては、この総合教育会議での協議を経て市長が策定するものと規定されております。

昨年11月25日開催の第1回総合教育会議では、大綱の骨子案を提示させていただきました。

第1回会議では、デジタル化や少子化の中、今後、5年間のまちづくり、子供たちの知、徳、体をどうやって向上させるかといったこと、具体的には情報モラル教育の充実、本質的な問いによる授業改善、子供の居場所づくり、グローバル社会に関する教育、道徳教育の充実といった数多くの御意見をいただきました。

今回は、第1回会議での意見を踏まえ、骨子案に説明文の追加を行い、尾道市教育大綱（案）として提示をさせていただいております。

まず資料1を御覧ください。

資料1では、前回提示させていただいた骨子案から修正した箇所については、別冊で配付しております資料2、新旧対照表についても御覧いただくとともに、大綱（案）の該当箇所に下線を引いておりますので、御覧いただければと思います。

新旧対照表は、左側に骨子案での内容を、右側に今回お示しする案での内容を記載しております。

まず、表紙にもあります大綱の名称ですが、第2次尾道市教育大綱としておりましたが、第2次という言葉を取り、代わりに大綱の計画期間である令和4年度～令和8年度という表現を追加しております。

次に、全体の構成が分かりやすくなるよう目次を追加しております。

また、1ページ、第1策定の趣旨についてですが、生涯学習に関する記述がございませんでしたので、後段部分、下から7行目からの「また」から始まる部分を追記しております。

次に、2ページ、第2大綱の位置付けと第3計画期間については修正しておりません。

3ページを御覧ください。

第4教育大綱の方向性についてでございますが、視点②シビックプライドの醸成では、前回の会議での御意見をを受けて追記を行っております。

5ページを御覧ください。

第1回会議において市長の発言にありました子供の知、徳、体を向上させてほしいという視点を念頭に置いてということで、学校教育の柱として内容を記載しております。

続きまして、6ページを御覧ください。

教育政策の体系ということで、このページ以降は前回お示しした骨子案から大きく加筆をさせていただいております。

太文字の部分が前回御確認いただいた骨子の部分でございます。その骨子の下に具体的な方向性について説明文として添えております。本年度策定中の尾道市総合計画後期基本計画のうち、本市の教育・学術及び文化の振興に関する事項を整理し、また尾道教育総合推進計画との整合性も図りながら記載を行っております。

なお、下線部のうち二重線で示している部分は、尾道市総合計画後期基本計画から引用したものでございます。

資料3が、教育大綱（案）と後期基本計画と教育総合推進計画の関連ページを示したものでございます。太字の数字が引用した文書が掲載された該当ページとなります。一例を申し上げますと、資料3の(1)①確かな学力の育成で56ページが太字となっております。

資料4が、後期基本計画の関連する部分を抜粋したのとなりますが、56ページの①「確かな学力」の向上の部分を御覧いただきますと、二重線で表している箇所があります。同じ記載が資料1の大綱（案）6ページ、①確かな学力の育成欄の説明分のうち、中点の1つ目と3つ目にございます。

次に、骨子のうち、前回の会議で御指摘のございました部分について御説明をさせていただきます。

7ページを御覧ください。

(2)教育を取り巻く環境の充実に向けた取組の推進のうち、③「誰一人取り残さない」取組の推進の表現について検討したほうがよいとの御意見をいただきましたので、一人一人を大切に教育の実現という表現に変更を行っております。

最後に、尾道市総合計画後期基本計画は、現在、3月上旬の完成を目指し最終段階に差しかかっております。また、尾道教育総合推進計画については、2月28日までパブリックコメントを実施しており、現在のところ、最終的な完成には至っておりません。このため、これらの計画の文言、表現等の修正がある場合、教育大綱の関連部分については総合教育会議の主催者たる市長に一任をお願いしたいと考えております。

以上、説明といたします。よろしくお願いいたします。

○平谷市長 ありがとうございます。

これまでの説明を踏まえて、教育大綱（案）について協議をお願いしたいと思います。

大きな見出しに沿って進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、1ページの策定の趣旨から2ページの第3計画期間までで御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

特にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平谷市長 それでは次に、3ページから4ページまでの第4教育大綱の方向性のうち、まず尾道市教育の基本理念について御意見、御質問がございましたらお願いします。

ないようでございますので、基本理念が「尾道に愛着と誇りを持ち グローバルに躍動する人づくり」ということで、御意見がございましたらお願いします。

はい、豊田委員。

○豊田委員 基本理念のところに「尾道に愛着と誇りを持ち」とありますが、その中で特にクローズアップされているのが、シビックプライドの育成と、それからスクールプライドというのが2本立てでありましたけれども、このところをクローズアップして教育の中核に置くということはとても重要であると

思います。

それは、尾道に生まれ、尾道に育ち、そして尾道で教育を受けた子供たちが、将来大人になったときに、その受けた教育が自分たちの心のよりどころになるといいでしょうか、そういうものをしっかりと持たせる、そういう教育を行うということで、これから先の見通しとしてはっきりしたものができてくるのではないかなということ、今までにももちろんそれはなされてきましたけれども、多様化する中で、より一層そういうものを育てていくということが大事であると思いますので、大変いいと思います。

○平谷市長 ありがとうございます。

はい、村上委員さん。

○村上委員 4ページの急速な変化への対応ということで、2行目にI o Tという言葉があるのですが、学校においてとか、教育分野においてどのようなことになるのかイメージがつかめない、もし具体的な、もう実施しているとか、計画があるとかということがあれば説明していただきたいです。

○平谷市長 事務局、2行目のA I / I o T、5 G等の技術革新に伴うというのがあって、そのイメージを問われていますが。

はい。

○石本主幹（スマートスクール担当） 市長、スマートスクール担当主幹です。

先ほど御指摘のところですが、グローバル化の加速に伴う学校のイメージというところでの御質問だったかと思います。

現在も学校においては1人1台タブレット端末の活用から始まっておりますが、今後につきましては、様々な分野で、学校のみではなく、回線とかタブレット端末を使って、あらゆる方とZ o o mでの会議とか、例えば職場体験なども今学校に居ながらにして地域の方のお話を聞いたり、あるいは東京の企業の方のお話を聞いたり、教育の中においても様々な活用が進められているところです。どういう技術革新を学校の中に取り込めるかというところは、まだ毎年新たなものがいろいろ出てきているところですので、システムにつきましてもいろいろな情報を集めながら、学校の教育内容と確認しながら進めていきたいと思っています。

実際に今進めているものが何かというところは、タブレット端末と、それから大型提示装置でありますとか、保護者との連絡システムをこのたび導入いたしますところとか、少しずつですが、いろいろな技術を取り入れているところです。

以上でございます。

○平谷市長 この社会経済情勢の急速な変化への対応というので、下2行だけが教育分野において社会経済情勢の急速な変化に的確に対応していきますという、そこだけが教育分野ですね。その上、社会全体の情勢を書いているということではないですか。本安課長、説明してくれますか。

○本安教育指導課長 市長、教育指導課長です。

今おっしゃられたように、日本全国がAIとかIoT、5Gというような世界になり、今の子供たちはもう生まれたときからデジタル技術の中で囲まれて過ごすということになります。このデジタル技術を使えるか使えないかということで人生が変わるということもあります。ということで、デジタル技術に対応する教育、またはそういったことを使いこなせる、または今情報モラルというのも大きくありますけれども、知らないことで損をしないということも含めて、このデジタルの社会に対応する教育を進めていこうということでございます。

○平谷市長 簡単に言うと、社会全体がデジタル化というか、全体の社会情勢のグローバル化という状況が進んでいますよと、それに的確に対応するということを書いているということですね。

○本安教育指導課長 はい、ありがとうございます。

○平谷市長 この文章だけではなくて、例えば校務運営システムというのも入っているのでしょうか。そういう部分を今までも随時やってきて、学校の職員の働き方の中においてもそういう仕組みを入れてきていると。学校の子供たちには今のようにタブレット1台という取組をしてきていると。これから、例えば保護者のコミュニケーションのプラットフォームということでアプリを入れている取組を開始するとか、そういう時代の流れの中で適切に対応するという話なんですよね。

○本安教育指導課長 はい、そのとおりです。

○平谷市長 ということだそうです。

はい、どうぞ。

○村上委員 IoTというのは、要は通信機能を備えたいろんな機器ということだろうと思うのですが、タブレットは子供たちに持たせているからそれはいいのですが、今後、どんなことがあるかなと思ひまして、そのところのイメージがつかめなかつたので質問しました。特にそれは、こういったことにしたいとかということは今のところはないわけですかね、今後の課題ということで、的確に対応していくということで。

○本安教育指導課長 市長、教育指導課長です。

通信技術というお話もありましたけれども、子供たちはタブレットを使うということになっていますが、今後、ますますインターネットを介して遠隔であったり、またはもう自分の意見を世界に発信したりというような、そういう時代、機会が教育の中でも出てくると思います。そういうことで、通信回線を普通に使いながら授業を進めていくというイメージだと考えています。

○平谷市長 よく自分の意見を発信するといいますけれど、逆に異文化を学ぶこととして使うとか、多様性を学ぶとか。ウェブでつながるときには国内だけに限らない、今まではできなかったことができる、そういうデジタル社会になっていると。

というのが、私たちが6年前か5年前にイタリアに視察で行ったんですね。それは2グループに分かれて行って、1つは瀬戸田のレモン農家の関係者とか、今のレモンを素材にした商品開発をしている人たちと、もう一つ、私たちはイタリアの総領事からの御案内もいただいて、レモンの北限からずっと下がって行ってイタリアのアマルフィまで行ったんですね。ティラミスの発祥の地はイタリアなんです。ある町に行ってティラミス頼んだら、出てきたら瓶の中に入っているんですよ、瓶の中に入っているティラミスなんか日本で食べたことがないから。今回そういった御縁があって、白坂成功先生という、尾道出身で、慶應大学のシステムマネジメントデザインの先生との出会いがあって、イタリアのアマルフィと尾道とウェブでつなげたんです。イタリア語が堪能な立命館大学の石田先生がそこにおられて、その先生が全部イタリア語でやられるんですよ。私がアマルフィに行ったときに、アマルフィの農家のサルヴァトーレという人と会ったのですけれど、このたびまたその人も代表で出てきて話をされました。イタリアのレモンは1,000年の歴史を持っているのですが、瀬戸田のレモンはまだ40年ぐらいです。そういう文化を学ぶという話になると、イタリアのレモンの葉っぱを使って、若い葉っぱは真ん中にチーズを入れてオリーブオイルで揚げて食べるとか、あるいはレモンの葉っぱをお茶の葉っぱのようにして調味料に使うとか、様々なことをイタリアのシェフがウェブの中で見せてくれて、そうしていたらティラミスの話になって、ティラミスもレモン風味のティラミスとか食べたことないですよ、でもイタリアのアマルフィはレモン風味のティラミスなんです。そこで学んで、よし、瀬戸田でもレモン風味ティラミスをやろうということで開発に入っています。

要するに、いろんな異文化を学ぶとか、そうして自分たちの生活とかを海外のものを知って何かするとか、自分の意見をなかなか述べられないと思うけれ

ど、そういうことが可能になる。コロナ禍だから逆にそのことが広くできるようになって、国内の例えば交流もいいと思うけれど、グローバルと掲げると、海外のそういった人たちとか、そういうものをつながっていくということも視野に入れていただきたいなあと思います。今までだったら、どちらかという台湾とか近いところでやってきています。英語を中心にとか、共通言語になるとかということがあられるけれど、実際に今尾道高校には台湾から留学生が来ていますよね。尾道の商工会議所の前に今度ベトナムの料理がオープンしたりして、身近なところにどんどん多様な世界が入ってくるような、そういった視野も今のようにI o Tとかを使ったりした形で新しい、子供たちがわくわくするような未来が開けていくようなものにつなげていくようなこともお願いしたいなあと思います。

イタリアのアマルフィでは、レモン風味ティラミスやレモンの葉っぱを使った香辛料とか、そんなことをやっていて、日本のやっている観光産業がいかにか貧弱かというのが分かる。その代わり、いろんな意味でいくとまだまだこれから歴史が違う中で発展をしていく可能性も大いにあるということをおぼし、そんなことも子供たちにI o Tを使って揺さぶってほしいなあと思います。

的確に対応していくという表現だけでは弱いんだよね、多分。

○村上委員 具体のところはなかなか表現できないか。

○平谷市長 そこはちょっと課題にしておいて、肉づけしてもらおうということで、委員さん、よろしいでしょうか。

○奥田委員 先ほど市長さんのお話を聞きながら、アマルフィというのは小林和作が若いときに長期滞在して、絵を残して、多分美術館にも和作の絵があると、そういうゆかりのある町ですね。不思議と尾道に縁があるのかも分かりませんね。

私の意見なんですけれど、3ページをお願いします。

こここのところで、2番目、シビックプライドの醸成とあります、その下にスクールプライドということも強調していただいています、ここは極端にスクールプライドというのがもっと強調されてもいいのかなと、教育の場なので、いわゆる「シビックプライド・スクールプライド」みたいな文脈でもいいのではないかなと思います。

こここのところでは、ふるさと尾道に愛着と誇りを持ちということで、本当に愛着とか誇りを持つためには、実践とか行動とか何か具体的な動きがあって、それが本当に自分の身になるものだと思いますので、具体的にどういう実践、行動を取っていくのかということが次に大切になると思うんです。ここを幾

からお題目のように唱えても、そんなものは本物ではないということになると思いますので。スクールプライドというものを尾道の教育の中に1つ大きな要素として入れると考えれば、例えば学校経営計画というのを各学校がこういう特色で学校経営しますというようにつくります。その中でも、具体的にうちの学校はこんなところを大切にやっていきますみたいなことを文章化して、具体的に教育内容ではこんな形で落とし込みますというところまで書いていってもいいのではないかなという気がします。具体的に何をするのが一番大切になると思いますので、また意見を聞かせていただけたらと思います。

○平谷市長 ありがとうございます。

さっきの4ページのところの教育分野においてということで、あそこも文章的にちょっと補強をしてほしいということと。

今の奥田委員さんの、先ほどありましたように少し具体を入れて、大綱で学校においてはシビック・スクールプライド、あるいはシビックプライドを醸成するために具体的にこうさせるということを事務局サイドで補強してもらったらいいのではないかな。そうすると、内容がより明確になる。教育長さん、よろしいでしょうか。

○佐藤教育長 市長、教育長。教育委員会では実際に年間で校長の業績評価をやっていますけれども、今市長さんがおっしゃられたように、そのスクールプライドを醸成するために、学校経営目標にそういったことを常に意識をしながら進めるようにというのはお願いしておりますので、それがどういう形で表現として出てくるかというのは、各学校、校長、それから教職員の中で十分議論してくださいねというところで今年度の業績評価の校長面談は終わっております。そのあたりまた指導を進めて、徹底したいと思います。

○平谷市長 豊田委員さん。

○豊田委員 今までにも各学校でそれぞれ地域学習であるとか、ふるさと学習であるとか、そういった題目の下にいろいろ実践をなされていますよね。それをある程度義務づけるといいますか、日本の県の施策を見ても、ふるさと学習を全部の学校で推進します、それはこういったものをしますというのが掲げられているのが結構あります。今回これがシビックプライドとスクールプライドを中心に押し出したのであれば、どの学校もこれをこうするというのをきちんとうたい上げたほうがはっきりするのかなという気がします。それぞれやっておられるんですよね、どこの学校も。それを体系づけていくとか、まとめていくとか、そういったことを具体的にやっていくと、もっとはっきりするかなという気がいたします。

以上です。

○平谷市長 今の意見を受けて、ここの表現の仕方を3ページのシビックプライドの醸成ということと、社会経済情勢の急速な変化への対応というのは少し補強をしていただくということによろしいでしょうか。

はい、そういうことでお願いをいたします。

それでは次に、5ページ、教育政策の柱について御意見、御質問はありませんか。

学校教育と生涯学習という2つの項目についての柱でございます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平谷市長 特にないようですので、最後のページになりますが、6ページ、教育政策の体系について見ていただいて、御意見、御質問をお願いしたいと思います。

はい。

○木曾委員 基本理念からずっとグローバルに躍動する、グローバル社会、という表現が出てくるのですが、そもそものところで、何を指して、どう目指しているのかがちょっとつかみにくいのです。市長のお話の中にも世界的にとか、日本だけとか、尾道だけにとどまらずというところなのか、もっと違う意味なのかつかみにくいなど。どんなところで活躍する、躍動する人になってほしいのかというのがすごく抽象的過ぎて捉えにくいなあという印象がずっとあるのです。ああ、こういう人を目指している、こういうふう活躍してほしいんだというのが明確にイメージできないのです、私の中で。何を求めているのか、どんなに大人になってほしいのかというのが。

○平谷市長 今そのグローバルという言葉の使い方が分かりにくいなあというのがあって、これは多分個人によって皆違う言葉だと思うんですよ。

例えば尾道の造船はもうグローバル企業なんですよ、造った船は世界を走っているという。造船現場で言うと、技能研修生ということで海外からも入ってきてという話になるので、そういう意味で言うと、以前とは違う多様な国の人たちと関わりながら生活していく環境になっていて、日東電工さんなども世界を相手に話をしているので、例えばアップルが大きな取引になると、アップル社の供給を維持していくためには、簡単に言ってCO₂を排出しているような電力を使っているところは取引なしみたいな話になる。だから、全体としては見えないのだけど、グローバルという全体の中で社会構造が変化してきていると。

それから、これから多分尾道もそうなんですけれど、国の方向性としてのイ

ンバウンド観光という、外国人の人を対象にしたそういったイメージになる。今、瀬戸田にSOIL SETODAという店を出している子たちの会社の公用語は英語なんですよ。もちろん自転車の部品のシマノ、これも英語ですよ。海外でグローバルに働いていくというのが視野に日常的に入ってくるような社会構造になるということがあるので、グローバルという言葉はそういう意味では必要な言葉かなと。でも、分かりにくいと言われたら分かりにくいですよ。

子供たちはこれから意識して、例えばEUなんかそうだと思うのですが、共通語が英語です。ですから、英語力を身につけていくということは、これからの社会では必要なことになってくる、標準語に近づいてくると。そういう意味で言うと、これからの5年間もそういった社会構造になってくることがあるので、グローバルという言葉は使うにはいいのかなと思います。

○木曾委員 言葉としては使うのがいいと思うのです。

ただ、どこを取っても指していることが1つではないので、なかなか分かりにくいなというイメージが。尾道の中で世界に発信するのか、それとも出ていくのか、どんなイメージなのかなと。

○平谷市長 もう一つ、行政的なことから言いますよ、教育委員会じゃなくて、世界から注目される尾道、世界からよ、というイメージです。よろしいでしょうか。

○佐藤教育長 市長、教育長。これはもともとつくったときの発想ですけども、子供たちに限りませんが、外国に行っても、尾道の中にも、当然国際感覚を持ってその多様性を理解できるような人間に育たないと、これからの社会の中で生き抜いていけないということで、非常に抽象的ですが、そういうイメージを持ってこの言葉を前回のときに選びました。そして今回も継承したいという。

○平谷市長 ぱっと言葉で書いてあると何だろうと、ちょっと補強したらそうなんよねえとなってきたりする。

○奥田委員 グローバル社会、まさにこれからの子供たちはそういう中で生きていかなければいけないということで、結局そういうグローバル的な意識をどう育てていくか、学校の中でどう育てていくかというのがちょっと見えないということはあると思うんですよね。先ほど市長さんが言われたように、日東電工、地元企業があって、アップルという企業と付き合いしていくためにはCO₂削減でないともう相手にされないとか、こんな話を子供たちが聞く機会があれば、ああ、なるほど、これからはやっぱりもう本当にSDGsでやっていかないとこれは世界的に成り立たなくなるんだとか、そういう高い次元の話な

り、何か聞く機会を、何か刺激を与えるという機会があってもいいのではないかと。ただ、今の教育内容の中では、今の尾道の子供たちがそういう話を聞けることはあまりないですよ。だから、これをグローバル社会に生きていく子供の育成ということの、具体的に今グローバル社会がどう動いているか、英語が基軸で動いていますよとか、そういういろんなものを、ああ、そういうことでこれから自分たちがやっていかないといけないんだなということを感じさせる何かが必要になってくるんじゃないかなと。そこを具体的に提示してやることによって、尾道の子供たちがグローバルに育っていくということになると思うんですよ。

○平谷市長　そうですね。奥田委員さんが言われたので、もう一つ、ジャイアントという自転車メーカーがごさいます、世界最大の自転車の会社なんですよ。OEMで世界の自転車を台湾で作っていて、その日本法人の社長と話をした中で、このしまなみ海道という表現ですけど、しまなみ海道は世界に誇れるサイクリングロード、だからさっきのグローバルという話のときに、私たちの尾道は世界に誇れる文化と地形を持っているとか、そういったことを言ったのは、その話をする中で中村さんという社長が例に挙げたのは、カナダのウィスラー、スイスのサンモリッツ、冬場はウィンタースポーツだけど、それ以外はサイクリングなんだと。日本で言うとしまなみなんだと、世界からの誇れるものになっていると。その入り口がまさに尾道だという、もう市長、これですよという話で。そう言われると、例えば尾道の歴史的な文化財は日本の歴史的な文化財で世界に足る歴史的な文化財を持っていると、国宝もあるわけですよ。だから、そのグローバルという土壌の下に、尾道は世界に誇れるまちというようなことを子供にしっかり教えてやったほうがいいという。先ほどのお話で、自分たちが住んでいるのが世界に誇れる地域だということを念頭に置きながら子供を育てていただければ、スクールプライド、シビックプライドになる。

それは、私らも住んでいるとその美しさが日常過ぎて分からないというぐらいで、サイクリングで何が世界に誇れるのかといたら、市長、船に乗ってクルージングとサイクリングを楽しめるのは世界でここしかない、その地形を渡っていくという。ジャイアントの劉会長が、もうこのダイナミックさは、来島大橋の下を大型タンカーが通り、そのタンカーの上を自転車で通っていくことは世界には類がない、それが日常過ぎて当たり前になっているから分からないけれど、外から来る、世界から来る人にとってはもう圧倒的なスケール感なんですよ。島へ住んでいる人はあまりにも日常過ぎてどうしたのと言

うのだけど、そういうことを小さいときから教えてもらってれば、誇りにつながるのではないかなあと。

また、もともとの尾道水道といえば、日宋貿易とか、いわゆる海外との貿易の拠点であったとか、そういうことも含めて歴史的なものも教えていくということがあれば、グローバルということに躍動する前に、住んでいるまちがグローバル、世界に誇れるまちだというのを基盤にさせていただきながら取り組むというのがあればよりいいのかなあと、そういう気がしました。どこかに書いてほしいですか。

○**奥田委員** あわせて、例えばそういうことを集めて尾道がどうしてグローバル的なところで脚光を浴びているかという一つの映像みたいなものを2編か3編ぐらいつくる。尾道におけるグローバル、教育の視点という感じで、ちょっと手間でしょうけれども、そういう映像のようなものをまとめていただくと、これを各学校でいろいろ見て、そして時にはそういう映像だけではなくて、本当の人に登壇いただいて、直に講演を聞く機会を設けていただくなど、まずは全ての小・中学生が総合的な学習の時間でグローバル教育みたいなものを受けることができる、基本型をまずつくっておく。そして、それをベースにさらに発展して、いろんな方にまた語っていただくというような、そういう形を入れていくと、ほかの市にない魅力ある尾道の教育になるのではないかなと思います。

○**平谷市長** 大綱なので、大綱ということ意識しながら文章の補強を考えていただいて、逆に教育総合推進計画というのものもあるのかな、この後。

○**佐藤教育長** はい、教育総合推進計画の方へ反映ということも考えて。

○**平谷市長** それが反映できればというような、考えで。

奥田委員さん、それでよろしいでしょうか。

○**豊田委員** よろしいですかね。

○**平谷市長** はい。

○**豊田委員** もう一つ、子供たちに体験をさせるということが大事だなと思う中に、尾道中学で3年間のうちの1回は自転車に乗って今治まで行くという体験をさせているのです。それは、大変なんですよ、でも、それを味わったときに、こんなに景色が美しいところが近くにあったとか、本当に自分の心底から表現できるような作文を書いたりしていましたが、活動の中にそういう子供たちがプライドを持つような体験をさせていくということも大事ではないかなと思います。それを今ここで一々上げるというわけではないんですけども、基底に自分たちがそういったものを直接、間接体験をしながら味わった

ことが生かされていくという、そういう大綱であつたらいいなと思います。

以上です。

○平谷市長 大綱の中の表現の仕方と教育総合推進計画の中の表現をどのようにするかというのはまた検討してもらえますか。

○佐藤教育長 市長、教育長。今大変いい御意見をいただきました。市長からも御示唆もいただきました。大きな方向性の部分を大綱に示させていただきながら、具体的な今の御指摘をいただいた部分については教育総合推進計画へ反映できるような形の整理がいいのかなと思いますので、ちょっとその辺は調整させてください。

○平谷市長 はい、そのようにお願いします。

グローバルという言葉は、木曾さん、もう大丈夫ですかね。

○木曾委員 いいです。尾道が何を目指しているのかなと気になったので。

○平谷市長 逆に、今のようにグローバルといったときに、子供たちが当たり前よねえと言えるような子供、住んでいるところも世界に誇れるんだからとか、子供の言葉でそう言えるような子供像みたいなというのなら分かりやすい。

○木曾委員 はい、そういうことですね。尾道が一番美しいとか胸を張って言える子供になってほしいです。

○平谷市長 そうですよ。それをジャイアントの中村社長は例がカナダとスイスを出して、そちらは山なんです。海では世界でここだけです。ナショナルサイクルルートといって全部ワン・オブ・ゼムにしてもらっても駄目なので、しまなみがトップワンなんだからという、そんな感覚ですよ。それが住んでいる人までまだメッセージとして伝わっていないところがあるので、住んでいる人たちがこのすばらしい瀬戸内海ということと、その真ん中に位置している尾道と歴史的な形の中で、国宝を含めた文化財をたくさん持っているということ。アマルフィは世界遺産だけど、歴史的なものがあつたりするけれど、映像で比べたらアマルフィに負けない映像になるんですよ。アマルフィがどうしたのとかいって。歴史が違うけれど、子供たちがそれだけ誇れるようなものになるように大綱と教育総合推進計画の整理をしていただくということで。

それでは次に、8ページ、生涯学習・スポーツ・芸術の推進ということで。

○村上委員 すみません。

○平谷市長 はい、どうぞ。

○村上委員 7ページのところで追加で、よろしいですか。

7ページの③の様々な才能を持つ子供、特別な支援を必要とする子供、これは書くことは簡単ですが、学校現場においては大変なことだと思うのです。というのが、才能を持つ子供って、浮きこぼれの子、もう9年間学校に行くのが苦痛だという子もいるし、反対の落ちこぼれの子もいるし、それを細かく一人一人に対応するということになると、人材的にもかなり難しいと思います。特別な支援を必要とする子ということになると、医療的なものとか、LGBTの子とか、そういった子がいたとしても、それはなかなか難しいのではないかなと。これ文書が悪いとかできないと言っているのではないですよ。要はどのようなイメージで支援をするかということだろうと思うのです。

もう一つ、外国人の子供ということは、外国人じゃなくても日本人でも外国にルーツを持つ子供についてはどういう表現したらいいのか分からないですけども、一般的な日本人とちょっと差異があるという子供に対してもいろんな配慮が必要ではないかなと思うのです。そこら辺の学校現場でのイメージはどうなんでしょうか。どのように考えておられるのか、もしあればお聞かせください。

○**本安教育指導課長** 市長、教育指導課長。一人一人を大切にすること、誰一人取り残さないという具体的な子供のイメージとして様々な才能を持つ子供、特別な支援を必要とする子供と書かせていただいています。今委員さんがおっしゃられたように、前は学校だけでいろいろな取組をしていたということもあったのですが、今はフリースクール、または適応指導教室、または社会福祉課等、様々な外部機関と結びながら、チームとして子供たちを支援していこうという動きになっております。ここに書いてあるのは、そういったイメージで様々なところをつなぎながら、子供たちを一人一人大事にしていこうという書き方にしています。

○**村上委員** はい、分かりました。

○**平谷市長** 村上委員さん、尾道では日本財団から助成をいただいて第3の居場所という形でボーイズ&ガールズということで、小文字でb & gということで居場所づくりをやっているというのも、今回尾道で第1号、それから因島で第2号、第3号を向島でやろうとしています。この第三の居場所づくりは子供たちの多様な可能性を伸ばそうとした取組で、これは非常に評価が高くて、実際に関わっている子供たちが市長室に来たときも、本当にこの取組に子供が感謝しているんですよね、自分が変わったということで。だから、そういうことを3地区もやっているのも広島県では尾道だけの取組なので、それが様々な形のフォローアップになるようなのが全て100点とはいかないのですけれど、そ

ういった取組をしながら、誰一人取り残さない方向性の考えを持って取組を進めているということなんです。なかなか難しいとは思いますが。

不登校の子供たちへの対応の課題とかもありますし、そういった課題も含めて、何とかして連携しながら取組を推進しますというところに気持ちがいっているということですね。また、それぞれの課題を聞かせていただきながら取組を進めていきたいと思えます。よろしいでしょうか。

あと、生涯学習・スポーツ・芸術の推進ということで、それぞれ大綱ということの中に文言整理をされているようですので、見ていただいて、とりわけスポーツの推進ということの中で、2点目の中にマリンアクティビティという言葉が入っています。これは広島県の事業メニューにあるものですね。どういった事業名だったか。広島県が、市町がそれぞれ1つのスポーツを推進する方を指定して、3年間補助金として総額1,000万円のうち500万円までを上限として出しますよという事業があるんですよ。そのスポーツの取組を尾道が海のまちだということで、海の資源を生かしたマリンアクティビティをこれからやるぞということをあそこに書かせていただいて、サイクリングは継続しますが、新しい取組ということでここに書かせてもらっているということですね。

○**内海生涯学習課長** 市長、生涯学習課長。事業名はわがまちスポーツでございます。広島県とSAH、広島県の事業団というか、団体と一緒に来年度以降、3年間かけてマリンスポーツを中心にした事業を展開したいと思っております。先ほども体験をさせたいみたいなことがありましたけれど、特に教育委員会の関係で言いますと、海と親しむとか、また現在既にあるマリンスポーツについて子供たちに親しんでもらえるように、そういった体験の学習を学校等にも広げていきたいと思っておりますので、そういったことを通じて海の魅力を、特に子供たちを中心に市民の方に知っていただく、また併せて外に向けての発信もしていくということにつなげていきたいという事業でございます。

○**平谷市長** その8ページ目で何かございますか。

○**奥田委員** 8ページの歴史・芸術・文化の継承のところの上から3番目ですが、デジタル技術を活用した新たな芸術・文化を創造するため、ICTインフラの整備による拠点性の向上を図りますという説明があるのですが、これが具体的にどういうものをイメージしておられるのかがちょっと分かりにくいので、説明いただければと思います。

○**山本文化振興課長** 市長、文化振興課長。今市内では、デジタル技術を活用してということで、5Gを使いまして、しまなみ交流館への基地の配置、また

旧三井住友銀行尾道支店への5Gの機器の設置などを進めております。しまなみ交流館においては、その5GなどICTインフラなどを使って、来年度は特にピアノの先生を招いて、ピアノの仕組みであるとか、鍵盤の仕組み、そういったものを学校教育にも生かしていきたいという取組も進めようと考えております。そういったイメージを捉えてここに記述をさせていただいております。

以上です。

○**奥田委員** 拠点とは、誰が、どういう拠点になるのかなというのがちょっとよくわからないのですが。

○**山本文化振興課長** そうですね、今まだ5G、次へ新たな6Gというようなものも検討されておりますけれども、そういった最新鋭のデジタル技術をいろんな分野に取り入れていくことでその拠点性を高めたいといった希望的なものも含めてこういった記述にさせていただいております。

○**平谷市長** 少し補強というか、例えばしまなみ交流館と、例えばベル・カント・ホールとか、向島の市民センターのココロとかのホールがありますけれど、これがWi-Fiでは駄目で、この間のようにインターネットのケーブルがないとそこで会議ができないのです。ウェビナーという機器を入れて、ステージで、ホールに座ってもらって距離感を取って、それを聞いたりするようなことにも、ICTの整備をしておかないと利用できないという状況もあったりするんですよね。だから、そういう形での環境整備も要するというのと。それから、今課長が話したような、新しい高速の形での芸術というか、そういったようなことにも対応できるようなことも含んで、拠点性という。

○**奥田委員** そういうことですね。

○**平谷市長** はい。

例えば高等学校、昔は尾道東高校ではいろんな夏休み前とかの生活指導とかを、机や椅子を出さなくてもいいので公会堂でやっていたんですよね。だから、そういう意味で、今のようにしまなみ交流館を使ってもらったり、尾道高校さんに向島の市民センターを使ってもらったり、いろんな形で有効利用してもらえばいい。ベル・カント・ホールだったら瀬戸田の小・中・高が使うとか、いろんな形で環境整備をしていけると幅広く利用できるようなことがあると思うんですよね。

ここの庁舎の中の2階の多目的ホールになると、椅子で300席入れるので、これらを有効に使ってほしいというのは高等学校にも話がけはしてあるのです。そういう意味でのICTインフラの整備による拠点性だと捉えていただければと思います。

○奥田委員 はい、よく分かりました。

少し話が広がってしまうのですが、上の2番目のいろいろな市内の美術館とか博物館とか連携強化を図りますというようなこともありまして、大綱に直接は関係ないですが、意見といたしましては、もう少し若い人の尾道大学の芸術文化学部等ありますので、尾道市立大学との連携とか、専門性を持っておられるので、そういう人材をうまく生かせないのかなということを感じています。いろんな情報の発信とか、若い人でないと食いつかない情報の発信の仕方もあると思いますし、若い人の感性でいろんな尾道のそういう美術館なり、いろんな伝統的なものをどう発信していったらいいか、せっかく芸術学部の大学生がいるのですから、そういうところも取り込みながら、尾道全体の情報発信をうまくやっていけば、もっといろんな発信の仕方があるんじゃないかなというのを感じました。大綱の文言とは関係ないですけど、また細部のところで具体的などころも何か検討いただいてはどうかと思います。

以上です。

○平谷市長 貴重な意見をいただいたと思うので、尾道市立大学の文言がこの1番とかの文章の中に、4番の一番上の項目とかに入る可能性があるんじゃないかな。

○佐藤教育長 出せます。

○平谷市長 出せるよね。

実際、今尾大の美術学科の卒業展の作品をこの庁内に展示させていただいていますが、それを発信したら、楽しみに見に来させてもらいますというような形があるので、三井住友の改修に合わせても、尾道大学のサテライトという形での展開をしようとしていますし、文言の中に入れることはできますよね。

○佐藤教育長 はい。

○平谷市長 それでは、調整させていただきます。

そのほか。

○木曾委員 歴史・芸術・文化の継承と創造という、人材育成、私小学生の頃に財間八郎さんですかね、あの方のスライドを使っての尾道の歴史とか文化財のお話を聞いて、久保小だったので特に自分の通学路にこんなものがあるんだとか、近くの浄土寺にこんな国宝があるんだとかというのを教えてもらって、尾道がすごくすてきなまちなんだってと思ったきっかけになりました。今、そういう人材がいらっしゃるのかなとか、人材的に尾道の歴史とか文化とか、そういうものを細かく教えてくださる方がいるのかなというのがちょっと気になる

ところでは、小学生の時に定期的に何回も教えていただいて、今もずっと覚えていますので、子供たちにも教えることが私はできているのですけれど、私より若い世代のお母さんたちもそういうことができるのかなあという、機会がたくさん欲しいなあと思うのです。

○平谷市長 まず、そういったことが言える先生は、尾道の文化振興課に学芸員がいますので、それは十分できるのですが、ただ学校に求められて行く機会が今のところなかったもので、それはまたそれぞれ取組の中に、この教育総合推進計画の中とかに記述が入ればいいのではないかと思います。

○平谷市長 はい。

○豊田委員 今のことですけれども、ケーブルテレビに非常にいい資料がありますよね。私は番組の委員をしているのですが、あのときにいつも何点か流されていて、ああいう映像をぜひ学校へ流す機会があれば流していただければ、今の木曾さんがおっしゃったような映像を通して子供たちの内面に尾道が焼きつくということでは非常にいい資料があるように思います。市もつくっておられるんですかね。いろいろにできているものは使っていけば、子供にとっていいんじゃないかなと思います。

以上です。

○平谷市長 そういった機会づくりというのは、学校と連携するというような形で教育総合推進計画に実際に書いていただければいいと思います。

それともう一つ、芸術・文化ということでアートの発信というのが必要だと思うのです。だから、今様々な形で発信という話の中で、美術館が一生懸命外部に向けてツイッターなどで、アートなのか、猫ちゃんなのか、いろいろ醸し出すところがありますけれど、まちから出ていく発信のそれぞれの中に、大学と連携しながら、尾道が持っている美術館や博物館みたいな資産は持っている数が圧倒的に多いんですよ。それは考えてみたら、圓鑿、平山、尾道市立大学、あるいは個人のなかた美術館、それから耕三寺さんの博物館とか、これだけぱっと数が出てくるまちというのは、このくらいの人口規模でほかにはほとんどない。だから、そこをしっかりとアートも含めて、大学の芸術・文化もあるというのを発信するということを、また教育総合推進計画の中に記述していただければと思います。財間八郎先生の話もよく分かりました。

○木曾委員 ぜひ、大好きなので。

○平谷市長 それでは、ほかにはないようですので、様々な御意見をいただきまして、大変ありがとうございました。

意見の対応につきましては、事務局にて整理をさせていただくこととしま

す。

それでは、本案を尾道市教育大綱とすることについて総合教育会議において協議が調ったということによろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○平谷市長 ありがとうございます。

以上で本日の協議は終了しました。

この際、そのほかとして、委員の皆様から何か御意見等がございましたらお願いをします。

はい。

○村上委員 この前ふと気がついたのですが、日本の市区町村の魅力度ランキングで尾道が31位、その前の年が何か39位で、いろいろ調査方法のばらつきがあるんでしょうけれど、50位以内に入っているのではないかなあと思うのです。何とかそういうことも子供たちに伝えて、ただそれが例えば総務省の調査とかというのだったら堂々と伝えることができるのですけれど、民間の調査会社でするので難しいと思いますが、そういうことを聞いたら私もやっぱりうれしいし、子供たちもやっぱり魅力あるまちなんだなあということを再度気がついていただけるのではないかなあ、何とかならないかなあ、何ともならないかなあと思いながら言わせていただきました。

以上です。

○平谷市長 ありがとうございます。

今、尾道を舞台にしてコマーシャルが流れているんですね。某キリンのレモンサワーですけど、この舞台が高根島と生口島という、コマーシャルにはなかなか地名が入らないのですが、いろいろな形で尾道の素材を使っていただいて発信をいただくというのは大きいことです。これからは世界から注目を集めるという、国内もそうですけれど、尾道というのが将来に向かってのまちづくりの基本になってくると思います。そういう意味では、教育大綱もグローバルという言葉を使いながら、子供たちに地元のことを誇れるような取組を教育現場に求めながら新しい教育をつくっていくということになろうかと思います。

それでは、委員の皆様には2回にわたり教育大綱の改定について協議をしていただきましてありがとうございます。今後とも皆さん方の意見を聞かせていただきながら、チーム尾道ということで取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それでは議事を事務局にお返しします。

○末國庶務課長 それでは、以上をもちまして令和3年度第2回尾道市総合教

育会議を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

午前11時25分 閉会